

平成27年度 第13回 直江津区地域協議会

次 第

日時：平成27年12月9日（水）午後5時～

会場：レインボーセンター 第二会議室

1 開 会

2 会長あいさつ

3 議 題

【自主的審議事項】

直江津まちづくり構想について

4 その他

- ・次回協議会について

\_\_\_\_月 \_\_\_\_日（ ）午後 \_\_\_\_時 \_\_\_\_分～ レインボーセンター

5 閉 会

	取組項目	意見	取組の目的	現状（課題）	取組案 内容	新水族館を核とした地域活性化事業（中活）
1	トイレの案内看板設置について	(1)	市内外からの水族館来訪者へのサービスを充実させるため、お客様目線として、水族館隣の海浜公園内トイレの案内看板を設置する	<ul style="list-style-type: none"> <li>海浜公園（タコ公園）のトイレが松林の中にあるため道路側からは分かりづらい</li> <li>地元直江津の人々でさえその存在に気が付かない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>駐車場や道路脇にトイレの行先表示</li> <li>トイレ自体にも表示を大きくするなど分かりやすくする。</li> <li>※船見公園他各所トイレも同様に、お客様目線で案内看板を設置</li> </ul>	
		(2)	まちを訪れていただいたお客様やまち歩きの方に、道中歩きやすく利便性を図り、おもてなしの気持ちを伝えるためにも、トイレを提供する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>公のトイレはいくつかあるが、案内表示が十分ではなく、数的にも不足している</li> <li>民間の方からのトイレ提供は、コンビニエンスストアくらいである</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>公の施設のトイレを積極的に案内する（看板の掲示、マップにトイレ表示する）</li> <li>民間の商店等呼び掛けてトイレを提供していただく（トイレをご自由にお使いください等の看板表示）</li> <li>トイレのない観光施設には新設する→多目的トイレの整備を進めてほしい。新設が難しければ、まずは、既存施設で使用可能な多目的トイレの案内だけでもしてほしい</li> </ol>	参考資料（4） ようこそ直江津おもてなしプロジェクト（トイレ提供等のステッカーの作成など）
2	水族館への誘導看板について	(1)	水族館を知ってもらい、場所を分かりやすく、安全に誘導するため	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在の誘導看板設置場所は、安国寺地内2か所、八幡地内1か所、駅前あけぼの2か所だけである</li> <li>看板には、水族館までの距離表示がない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>誘導看板は、御幸町や塩浜町地内にも必要である</li> <li>水族館までの距離表示や魚・ペンギン等の絵が入った看板</li> <li>道中、店舗にのぼり旗（屋号や家紋なども入れたり）や、空店舗のシャッターにペイントするなど工夫も必要</li> </ul>	参考資料（6） まちなか水族館事業（駅前や商店街に水槽を設置）
3	街なか・名所・旧跡への誘導看板について	(1)	<p>人をまちに呼び込むための方策 （上越妙高駅と春日山に直江津のPR看板を設置する） 直江津区として独自に上越妙高駅や春日山城跡への来訪者に直江津をアピールする提案をするものである</p> <p>※お客様を市外から上越市に呼ぶ取組、上越市の他区（高田や春日山など）に来た人を呼ぶ取組が考えられる</p>	<p>上越市の他区（高田や春日山など）に来た人を呼ぶ取組が必要である</p> <p>※現状認識として、上越市や上越商工会議所、上越観光コンベンション協会では現在、高田公園と春日山城跡を核とした観光振興に取り組んでおり、各区における観光振興は各区が独自で切り開くべきである</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>上越妙高駅と春日山に直江津のPR看板を設置する</li> <li>可能であれば春日山の天守跡に現在ある俯瞰図を直江津区として新しくして、直江津をアピールしたい</li> </ul>	
		(2)	直江津を知ってもらい、場所を分かりやすく、安全に誘導するため	看板には、名所旧跡等までの距離表示がない	名所旧跡までの距離表示を示した看板を設置（駅前に設置）	
4	渋滞緩和・安全対策について	(1)	歩行者の安全と渋滞緩和のため、直江津中等～グラウンドの間の横断歩道を考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>道路が狭く渋滞がある</li> <li>通学時間帯やグラウンド使用のため、生徒が横断する都度、車の流れがストップする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道路の拡幅</li> <li>横断歩道に信号機のタイムに合わせた手押し信号設置、または、横断歩道をなくす（すぐ傍に信号機があるため）</li> </ul>	
5	PR策 インターネット、SNS （フェイスブック等）の活用	(1)	水族館、直江津を知ってもらうことが第一であり、インターネットでの広報を行う	上越市のホームページでは情報が限定される	<ul style="list-style-type: none"> <li>上越市のホームページ（市）から国分寺や明静院などの名所・旧跡へアクセスできるようにする</li> <li>SNSも活用する</li> <li>マップ情報も掲載（駐車場案内、名所旧跡・水族館への距離等の道案内、飲食店・お土産店への案内、トイレ案内）</li> <li>PR動画サイトの利用（参考例：大分県別府市、佐賀市等、多数有）</li> </ul>	参考資料（5） 商店街まちめぐりプロジェクト（地域のイベント等の情報発信のため水族館のホームページ等でのPRを行う）
		(2)	<p>人をまちに呼び込むための方策 （フェイスブックを活用した直江津のPR） 上越市への来訪者ならびに来訪のきっかけづくりと直江津の情報提供の場として、フェイスブックを活用した直江津のPRを提案するもの</p> <p>※お客様を市外から上越市に呼ぶ取組、上越市の他区（高田や春日山など）に来た人を呼ぶ取組が考えられる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>知らないうちに終わるイベントが多数ある</li> <li>情報メディアやインターネットを有効活用する</li> <li>直江津に来てもらうには、地域住民が動かなければならない</li> </ul>	<p>フェイスブックを活用した直江津のPR</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>直江津のおすすめスポットの紹介と写真を投稿してもらう</li> <li>フェイスブックは市民が自由に投稿するのに使い勝手がよく、その情報や写真をもとにフェイスブックを活用していない方にも情報提供ができるように直江津区ホームページを作成できる。可能であれば効果を上げる為に、投稿された写真コンテストの開催やその写真を用いた絵ハガキやカレンダーの制作をするなどの活用をし、投稿者に特典をつけることが望ましいと思われる</li> </ul>	

	取組項目	意見	取組の目的	現状（課題）	取組案 内容	新水族館を核とした地域活性化事業（中活）
6	PR策 「直江津」単独の海水浴場のポスターをつくる（大判サイズ）	(1)	人をまちに呼び込むための方策 直江津としての海水浴場のポスターの作製を提案するもの ※お客様を市外から上越市に呼ぶ取組、上越市の他区（高田や春日山など）に来た人を呼ぶ取組が考えられる	・現在の海水浴場のポスターは直江津単独のものではなく、谷浜等と一緒に作ったポスターである ・直江津へ来る目的は、海を求める人がたくさんいる ・情報メディアやインターネットを有効活用する ・直江津に来てもらうには、地域住民が動かなければならない	・「直江津」単独の海水浴場のポスターをつくる（大判サイズ） 例えば谷浜とは客層が違う視点で考えたり、季節ごとのポスターを作るのもよい 海水浴場と一緒に海のまち直江津をアピールする ・直江津祇園祭のような市民団体等が作成したポスターをコンベンション協会が集めるなどして、市外での観光PRに使用できないか。	
7	PR策 直江津の絵ハガキを作成する。	(1)	人をまちに呼び込むための方策 直江津区として独自に直江津をPRする為に、直江津の見どころや旧所名跡、イベント等を紹介する絵ハガキの作成を提案するもの ※お客様を市外から上越市に呼ぶ取組、上越市の他区（高田や春日山など）に来た人を呼ぶ取組が考えられる	・永く続く仕組を考える ・祇園祭は、屋台自体が自慢ではなく、永く継承してきたこと ・直江津へ来る目的は、海を求める人がたくさんいる ・情報メディアやインターネットを有効活用する ・直江津に来てもらうには、地域住民が動かなければならない ※現状認識として、上越市や上越商工会議所、上越観光コンベンション協会では現在、高田公園と春日山城跡を核とした観光振興に取り組んでおり、各区における観光振興は各区が独自で切り開くべきである	・直江津の絵ハガキを作成する 直江津のPRグッズになるとともに、土産品としての活用も期待できると思われる→必ずしも絵ハガキということではなく、「メイド・イン上越」のような上越市ならではの土産物のPRを積極的に行ってほしい 図柄は同時に提案しているフェイスブックの投稿写真を活用することもできる	
8	PR策 トキメキ鉄道やしなの鉄道での直江津PR	(1)	人をまちに呼び込むための方策 直江津区として独自に直江津をPRする為に、直江津の見どころや旧所名跡、イベント等を紹介する車内吊り広告の作成し、トキメキ鉄道やしなの鉄道等への掲出を提案するもの ※お客様を市外から上越市に呼ぶ取組、上越市の他区（高田や春日山など）に来た人を呼ぶ取組が考えられる	・永く続く仕組を考える ・祇園祭は、屋台自体が自慢ではなく、永く継承してきたこと ・直江津へ来る目的は、海を求める人がたくさんいる ・情報メディアやインターネットを有効活用する ・直江津に来てもらうには、地域住民が動かなければならない	・トキメキ鉄道やしなの鉄道等での直江津PR 電車内中吊り広告や駅へのポスターの掲出	
9	PR策 マップの作成	(1)	・住んでよし、訪れてよしのまちづくりのため ・水族館、直江津を知ってもらうことが第一	掲載情報不足	・マップの作成 駐車場、名所旧跡の距離、水族館への距離等の道案内、食べ物屋、お土産屋への案内、トイレ案内 ・「上越物語」の簡易版を作成してより広く配布してほしい ・「上越物語」を全戸配布する、広報でPRするなどして市民の認知度を上げることにより、より積極的な活用を促してほしい ・「上越物語」をより広く活用すべきであり、民間の商業施設、店舗などにも市の予算で購入したラックを設置して広く配置してほしい ・各団体バラバラで作っているマップを市で調整していくつかに絞り、いろいろなところを見なくてもほしい情報が得られるようにしてほしい	参考資料（7） 直江津マッププロジェクト（上教大と連携し水族館周辺のマップ作成）
10	駅前観光案内所の整備	(1)	・観光客の皆様へのサービスの充実	現在の位置は大変分かりづらい	・自由通路北側の元JR駅長室の一部を使用することはできないか（えちごトキメキ鉄道、コンベンション協会等と連携） ・駅前に大きな看板の観光案内所兼無料休憩所	
11	環境整備（水族館周辺）	(1)	来館者を気持ちよく迎えるため	水族館と屋台会館の間の歩道の緑地帯について、雑草とハマナスが伸び放題になっている	定期的な草刈の実施	
12	レンタサイクルの設置	(1)	直江津来訪者へのサービスの充実	数年前に「なおえつ茶屋」にあったが、PR不足や歩道に自転車数が数台あり危険なため、取りやめた	旧びゅうプラザ前に貸自転車置き、管理はえちごトキメキ鉄道に願う ※歩道に電柱があるなど、自転車が運行しにくいこともあり、歩道整備を行う場合は、電柱の移設や地中化も考える必要がある	

取組項目	意見	取組の目的	現状（課題）	取組案 内容	新水族館を核とした地域活性化事業（中活）
13 周辺施設（直江津）の利活用	(1)	なおえつの海を県内外にPRするため	直江津港での釣り場が少ない	今年度試験的に実施した火力発電所堤防の釣り客への開放を28年度以降も継続・拡大してほしい	
14 駐車場について	(1)	水族館の駐車場だけでなく、街中に2か所か3か所設けて、水族館まで散策してもらおう。商店の活性化、渋滞の解消にもつながる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・街中の公共施設（レインボーセンター・学びの交流館）等の駐車場の駐車可能台数が足りていない</li> <li>・駐車場への誘導看板の設置が必要である</li> <li>・街中への回遊策として駅を利用させたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駐車場の活用例</li> <li>(1) 街中の駐車場確保 駅前のセブンイレブンの裏の駐車場、旧NTTの駐車場等を活用し、水族館の入場者の半券で駐車料金の割引などを考える ※駐輪場も同様</li> <li>(2) パークアンドライド方式 ①春日山駅周辺の市職員駐車場に駐車し、春日山駅～直江津駅を利用し、街中への回遊を促す</li> </ul>	参考資料(3) 街なかの特典プランづくり事業（商店街利用者への水族館割引券の発行など）
	(2)	渋滞緩和とまちなかへの回遊のため、パークアンドライド方式を採用する			
15 お休み処の整備・充実	(1)	直江津の町を訪れていただいたお客様やまち歩きの人に気軽に休める場所を提供して、おもてなしの気持ち（人にやさしいまちを前面に出す）を伝える。	公の施設においても民間の施設や商店においても誰でもが気軽に一休みできる施設がほとんどなく「お休みください」との表示も為されていない	<ul style="list-style-type: none"> <li>○お休み処の設置</li> <li>1 公の施設の一角に椅子、テーブルを準備して、お休み処をつくる</li> <li>2 協力いただける個人や商店に呼び掛けて、ちょっとしたお休み処をつくる</li> <li>3 空き家を活用してお休み処のスペースをつくる</li> <li>※ 赤ちゃんの授乳やオムツ替えができるスペースもつくる</li> <li>・お休み処に準備するもの 椅子、テーブル、給茶器、のぼり旗（お休み処の表示）、観光案内マップ、リーフレット、直江津を紹介する写真（観光案内所を兼ねる）</li> <li>・手順 (1) 公の施設にお休み処をつくる (2) 協力していただける個人、商店を募る (3) 空き家の活用について所有者と話をする</li> <li>・費用 当初の設置費用等は市の予算で賄ったらどうか</li> <li>○駅前に大きな看板の観光案内所兼無料休憩所</li> </ul>	参考資料(4) ようこそ直江津おもてなしプロジェクト（休憩用ベンチ設置）
16 店舗等にAEDを設置する	(1)	人をまちに呼び込むための方策 観光客はもとより、住民に対しても有用なのは間違いないので、来訪者及び地域住民の安全・安心に配慮するため、地域への設置を提案するもの ※お客様を市外から上越市に呼ぶ取組、上越市の他区（高田や春日山など）に来た人を呼ぶ取組が考えられる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流人口の拡大を目指す上で、町なかにトイレや休憩所の設置が望まれているが、まだまだ町なかに身障者用トイレが少ないのと同様に、AEDも公共施設や大規模商業施設へは設置が進んでいるが、町なかや町内単位ではまだ見かけない</li> <li>・直江津に来てもらうには、地域住民が動かなければならない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町なかの店舗や各町内等へのAEDを設置する AEDを備えた自動販売機などもあるので、その設置や既存の自動販売機からの置き換えの促進も有用と思われる</li> </ul>	